京都市

夏祭り「命の恩人」と再会

昨夏、準備中倒れた北野商店街代表理事

1年前に倒れた場所で当時を振り返る桂さん(左)と石田さん＝京都市上京区・北野商店街

その日の夕方もうだるような暑さだった。昨年7月21日午後5時前。京都市上京区の北野商店街で恒例の夏祭りが始まろうとしていた。桂浩一代表理事（69）は朝から準備に奔走していた。「しんどい。倒れそう」。そう独りごちた直後、頭から地面に倒れ込んだ。

周りにいた商店主たちが駆け寄ると、桂さんにすでに意識はなく呼吸もしていなかった。商店主たちは交代で心臓マッサージをしたが、脈はなかなか戻らない。

「医療関係の方はいませんか！」。商店街振興組合事務員の福島こずえさん（51）は、ひしめく来場者に向かって叫んだ。ベビーカーを押した女性が前に進み出た。「看護師ですが緊迫した場での経験はなくて…」。遠慮しながらも、周りに促されるようにマッサージを始めた。だが商店主たちとは明らかに違い、女性が桂さんの胸を押すたび胸がぐっと沈みこんだ。

桂さんの処置は現場に到着した救急隊に引き継がれ、搬送先の京都第二赤十字病院で緊急手術が行われた。心筋梗塞だった。

夏祭りの会場では福島さんが女性に名前を尋ねたが、女性は控えめに名字を告げただけでその場を立ち去った。

手術が終わり、病院で待機していた妻の幸子さん（63）は医師から「後遺症は残ると思う。1週間しても意識が戻らないかもしれない。万一のことも考えておいてください」と告げられた。

手術から3日目、桂さんの意識が戻った。2週間ほどで退院し、翌日から少しずつ美容師の仕事を再開。後遺症が出ることもなかった。「奇跡的だ」。医師も驚くほどの回復ぶりだった。

ただ、桂さんは女性に感謝を伝えられていないことがずっと心に引っかかっていた。手がかりは何もなく、時間だけが過ぎていった。

倒れた日から1年。今年も7月20日に夏祭りを開催した。会場で金券を販売していた福島さんは、売り場に来た女性の顔を見て驚いた。桂さんに心臓マッサージをした女性だった。

すぐに声をかけ、後で事務所に来てもらうよう頼んだ。そしてようやく、桂さんは女性に再会することができた。「ありがとうございました」。その言葉しか出てこなかった。

女性は近くに住む石田晴香さん(32)。「無我夢中でした」と当時を振り返る。先月に商店街事務所で行われた上京消防署の感謝状贈呈式に出席し、「見違えるように元気になれてびっくりした。よかったなと思います」と喜んだ。

「助けていただいた命。みなさんのお役に立てることをしていきたい」。桂さんはそう胸に誓った。

（中村幸恵）

来場の看護師処置、奇跡の回復

1年ぶり「感謝伝えたかった」

ハートフルニュース

医療法人順和会
京都下鴨病院
下鴨リハビリテーションクリニック TEL 075(781)1158
宝ケ池リハビリテーションクリニック TEL 075(705)0123
宝ケ池リハビリテーションクリニック TEL 075(201)0072

読者応答窓口
☎ 075(241)5421
「まちかど」欄
FAX 075(252)5454

「すこやかに」募集しています

京都市在住で、満3歳の誕生日までのお子さんが対象です。各販売所に備え付けの申込書に記入し、写真と、母子手帳の「出生届出済証明欄」のコピーを添えて掲載希望日の1週間前までに報道部へお届けください。掲載記念として、希望者にはお子さんの顔写真入りカレンダーを進呈いたします。

ツシマヤマネコ 生態解説

きょう・あす市動物園　写真展やクイズも

京都市動物園で飼育、公開しているツシマヤマネコのキイチ（同市左京区・同園）＝同園提供

ツシマヤマネコの日（10月8日）を前に、絶滅危惧種のツシマヤマネコをテーマにした「やまねこ博覧会」が4、5日、京都市左京区の市動物園で開かれる。飼育下では国内最高齢という「キイチ」（18歳、雄）を公開している施設前での解説をはじめ、全国で飼われる全35頭の近影を集めた写真展もある。

ツシマヤマネコの日は、対馬での呼び名「とらやま」にちなんで設定された。

同園は5頭を飼育して繁殖を試みており、うち「キイチ」のみを公開している。毎年この時期に博覧会を開き、14回目になる。

4日午前11時15分から、「キイチ」の公開施設付近で、獣医師や飼育員が生態などを解説する。同日午後1時15分からは、ツシマヤマネコに関する2択クイズ大会もある。

全国35頭の写真展は各地の飼育員らが間近で撮っており、茶色く薄い夏毛と、灰色がかった冬毛の違いが分かる。

生息地の長崎県・対馬で活動する保全団体による展示もあり、生態や繁殖の取り組みを学べる。ツシマヤマネコの紙芝居、着ぐるみとの記念撮影もある。写真展のみ26日まで続く。詳細は同園公式サイトへ。

（田中恒輝）

「日本映画発祥の地」で台湾映画を

あす、元立誠小跡地施設で上映会

上映される台湾映画「海殤」の一場面

「日本映画発祥の地」をうたう元立誠小跡地に立つ複合施設「立誠ガーデン ヒューリック京都」（京都市中京区）で5日、台湾映画の上映会が開かれる。立誠小は1897年に実業家・稲畑勝太郎がフランスから映写機とフィルムを持ち帰り、日本で初めて試写に成功した地とされる。立誠小は1993年に閉校となり、2020年に不動産会社ヒューリックが複合施設を整備した。

「京都と台湾をつなぐ リトル文芸フェスタ」と題した上映会は台北市育ちの翻訳家・池田リリィ茜藍さんが複合施設を訪れたことを機に立誠図書館が企画し、去年に続き2回目になる。

1部（午前10時5分～午後0時20分）では、太平洋戦争中に「慰安婦」だった女性を描いたドキュメンタリー「蘆葦の歌」を上映。2部（午後1時50分～4時半）は、1874年に台湾に漂着した琉球人が殺害された牡丹社事件をテーマとした「海殤」を映す。

ともに監督が登壇するトークもある。大人千円で1・2部通しで見ることができる。小学生～大学生無料。予約不要。詳細は立誠図書館075(585)5561へ。（田代真也）

赤い羽根募金ご協力を

八坂神社前　舞妓ら市民に呼びかけ

募金箱を手に、通行人に笑顔で協力を呼びかけた舞妓の寧瑛梨さん（京都市東山区）

今年で79年目を迎えた「赤い羽根共同募金運動」が、全国一斉に10月から始まっている。京都市東山区の八坂神社前では、地元の花街・祇園東の舞妓が募金箱を手に「おたの申します」と市民や訪日客に声を掛け、協力を呼びかけた。

運動は10月～来年3月。府内の目標額を昨年とほぼ同じ2億8400万円とし、お年寄りや障害者、子どもを支援する福祉活動に配分する。

府共同募金会などが1日から、各地の街頭や催し会場で寄付を呼